

令和4年度栗東市高齢者保健福祉推進協議会（第1回）協議録要旨

- 【日時】 令和4年10月27日（木曜日） 午後1時30分～  
【場所】 栗東市役所 4階 第3・4委員会室  
【出席者】 新木委員、堀委員、渡邊委員、岩崎委員、田内委員、辻委員  
藤ノ木委員、平田委員、中村委員、鈎委員  
【事務局】 副市長、健康福祉部長、長寿福祉課長、外3名  
【欠席者】 飯田委員、渡部委員

1. 開 会
2. 市民憲章の唱和
3. あいさつ  
副市長
4. 委員委嘱・自己紹介  
委員の任期満了に伴う改選。委嘱上の交付  
再任5人、新任7人の計12名の委員をもって組織する。
5. 会長・副会長の選出  
互選により平田委員を会長に、堀委員を副会長に選出
6. 専門部会員の選出  
互選により新木委員、田内委員、中村委員を選出
7. 協議事項  
(1) 第8期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について  
事務局が資料に沿って説明

説明をした主な施策（ページ名）	個別事業名
介護予防・健康づくりの推進 1～3ページ	①栗東100歳大学 ②いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操の啓発及び実践団体の育成支援 ③いきいき活動ポイント事業 ④管理栄養士等の人材の活用 ⑤健康スマホポイント事業
生きがいづくりの推進 4ページ	⑥老人福祉センター管理運営事業

認知症「共生」「予防」の推進 8ページ	⑦認知症サポーター養成講座の実施
認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護の提供 9ページ	⑧認知症初期集中支援事業の実施 ⑨徘徊高齢者家族支援サービス事業 ⑩認知症高齢者事前登録制度
高齢者虐待防止の取組の推進 10ページ	⑪総合相談事業
高齢者権利擁護の推進 11ページ	⑫措置入所
地域包括支援センターによる包括ケアの推進 12・13ページ	⑬「介護離職者ゼロ」に向けた施設整備 ⑭自立支援型ケア会議の開催とケアマネジメントの充実 ⑮自立支援ケア会議と連動したリハビリ専門職派遣
在宅医療と介護の連携 13・14ページ	⑯相談窓口の設置運営 ⑰多職種代表者会議 ⑱在宅医療・介護関係者の研修開催 ⑲生き方カフェ
安心できる住まいの環境づくり 16ページ	⑳買い物支援等サービス協力事業所 ㉑情報連携の強化と施設整備
介護人材の確保・育成 17ページ	㉒介護・福祉人材確保事業
サービスの充実 17・18ページ	㉓地域密着型介護老人福祉施設の整備 ㉔在宅要介護高齢者等紙おむつ費用助成事業
サービスの質の向上 19ページ	㉕地域密着型サービス事業所の指定、指導監査 ㉖居宅介護支援事業所の指定、指導監査 ㉗多職種によるケアプラン検討 ㉘出前講座

(委員1)

認知症の方がGPSを持つことに対して市では助成をしていたと思うが、先日行政無線で、徘徊で行方が分からなくなった方の放送があった。この方はGPSを持っていたのか。

(事務局)

ご指摘の方については、GPSは持っていませんでした。

(委員1)

必要な方が持っていなかったということについて、市としてどうお考えか。

(事務局)

ご家族へ支援については説明をしており、そのうえで希望されませんでした。

(委員1)

認知症高齢者として事前登録いただいて、徘徊時には早く見つけてあげたいという思いが、地域としてもある。文書での案内ではなく、対話でもってお薦めしてほしい。

また、介護事業所が介護職をどれくらい募集して、どれくらい採用したというデータはないのか。

(事務局)

民間事業所の採用状況については市では把握はしていませんが、全体の傾向として足りていないということは認識しています。

(委員1)

現在どのくらい足りていないということを把握していないということか。事業者さんにお任せということか。

(事務局)

事業者さんごとの状況には立ち入っていませんが、介護人材フェアなど採用活動の場を提供するよう取り組んでいます。

(委員2)

ひとり暮らし高齢者や老老介護の状況は、ケアマネさんから報告はあるのか。

(事務局)

そうした世帯すべてを市として詳細に把握しているわけではありませんが、民生委員児童委員や事業者さんから困難な事例については報告を受ける中で、地域包括支援センターと連携しながら支援をしています。

(委員2)

ぜひ情報収集に努めていただきたい。最近近所づきあいが特に少なくなっているので心配している。

(委員1)

先日、老老介護のご家庭の方が「死んでしまいたい」と言っていて、びっくりした。様々な相談支援があることは、もっとPRしてもらいたい。

(事務局)

コロナ禍で、市民からの声が聞こえにくくなっています。SOSがあった際には、必要な支援につないでいきたいと思えます。

(会長)

GPSの話については、どのように持っていただくかというのは課題と思う。自ら持たなくとも、位置が把握できるような仕組みが必要なのではないか。

介護職員の不足については、数の把握はやはり必要ではないか。アンケート調査でもよいので検討いただきたい。

ひとり暮らし高齢者の実態については、地域任せになっていないかと心配している。今後深刻になっていく課題であり、行政には積極的に関わってほしい。

(委員 3)

栗東市はケアマネ不足の現状がある。ケアマネひとりの負担が大きく、居宅介護支援事業所が増えないと、今後対応が難しくなっていく。大分(杵築市)では、居宅介護支援事業所に就職したら10万円もらえるといった支援もあると聞いた。ケアマネ確保に向けて対策を検討いただきたい。

また、ケアプラン作成に当たって、介護給付適正化例外検討会も問題がある。たとえば通院同行介助や掃除などについては検討会の承認を得ないと、介護給付事業として実施することができないが、栗東市は他市より承認が厳しいうえに開催期間も短い。困っている高齢者に支援ができるよう、柔軟な対応をいただけないか。

(事務局)

ご指摘については持ち帰り、検討したいと思います。

(委員 4)

資料説明にあった、人材確保のための検索サイトについて少し説明する。南部介護サービス事業者協議会としては、京都や大津市の賃金が高く、人材が流れて行っている現状から、住み慣れた地域で働いていただけることも目的に、検索サイトを作った。

同サイトでは、各事業者が人材照会でき、また人材不足の事業者の照会もできる。ただ多額の照会料が必要になるし、それを活用しても人材は充足していない。

事業者の人材不足という観点で、検案件数については追って報告ができると思う。

(会長)

ケアマネや事業者の賃金の確保については、十分に検討いただきたい。

## (2) 第9期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定について

事務局が資料に沿って説明

(委員 1)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査については、無作為抽出で2,000人を対象とするとあるが、抽出ではなく全員に実施するとよいのではないか。

(事務局)

全員を対象とするのもひとつの考え方だとは思いますが、栗東市では2,000人配付という形でこれまで実施してきている。(柵ぎょうせいより、2,000という配布数であれば、回収数が少なかつたとしても有意な結果が得られる旨の補足があった。)

また、回答に何分くらいの時間を要する、などの記載をすることで、少しでも回答いただけるよう工夫したいと思っています。

(会長)

前回の回収率はどうだったのか。

(事務局)

前回は2,400票配付し、1,600票の回答を得ています。

(委員 2)

老老介護の世帯が、若い人と同居しているかどうかを把握していくことは可能か。

(事務局)

避難行動要支援者名簿を整備していく中で把握はしていますが、世帯分離しているケースもあり、実態を完全に把握するのは難しいです。

(会長)

ケアマネと事業者の調査の対象は全数なのか。

(事務局)

全数を想定しています。

(会長)

では、事業者の人材不足数やケアマネの多忙さの実態など、把握できるよう検討いただきたい。また、来週の金曜までに調査票に対する意見がある場合は、事務局に連絡するよう委員の皆様にはお願いしたい。

(委員 4)

重層的支援体制整備事業は、もう実施しているのか。

(事務局)

今年から社会福祉課にて、多職種連携に向け情報収集を行い、実施に向けて動き出しています。

8. その他

9. 閉会